

ちちぶ定住自立圏

中心市宣言書

平成21年3月19日

埼玉県秩父市

ちちぶ定住自立圏 中心市宣言

「ちちぶ」は、周囲に秩父山地の秀嶺をはじめとする山岳丘陵をめぐらせる盆地に開けた山紫水明の地である。奥秩父に発する荒川の清流と大森林が生み出す大気は、多くの生命を育み、人々の暮らしに潤いと安らぎを与えている。

「ちちぶ」の歴史は古く、崇神天皇の時代には「知知夫国（ちちぶくに）」が開かれ（旧事紀国造本紀）、そこに暮らした先人は豊かな自然の中であって文化を形成してきた。知知夫国は後に武蔵国の一部となり「秩父郡」が置かれた。「ちちぶ」が歴史上著名になったのは、西暦 708 年に武蔵国秩父郡から自然銅を朝廷に献上したことが「続日本紀」に現れてからである。天皇は年号を「和銅」に改め、この銅により我が国最古の通貨「和同開珎（わどうかいちん）」が鑄造された。

時代は下り、江戸時代には忍藩の陣屋を大宮郷(現秩父市中心部)に置き、代官が民政を担当していた。また、大宮郷に鎮座する妙見宮(現秩父神社)が秩父郡の総鎮守として古くから郡内の神社信仰の中心的地位を占め、その祭礼、祭市により商業も発展してきた。爾来大宮郷は秩父地方の政治経済の中心地として栄え、明治維新後大宮郷に「秩父郡役所」が置かれ近代化への道を歩んだ。

明治 19 年の秩父新道開通、明治 28 年の熊谷大宮道改修、そして大正 3 年の熊谷秩父間の鉄道敷設など、交通網が著しく整備された。それに伴い従来の農林業、織物業に加えセメント産業が興り新たな地場産業となった。そしてこれらは戦後も秩父地方の主要な産業となって地域の発展に貢献した。さらに昭和 44 年の西武鉄道秩父線開通や関越自動車道の開通など交通アクセスが整備され、観光が新たな産業として脚光を浴びるようになってきた。

このように「ちちぶ」は悠久の歴史の中で独自の文化を築き上げてきたのである。廃藩置県後幾多の変遷を経て、現在秩父地方は横瀬町、皆野町、長瀬町、小鹿野町、そして秩父市の一市四町が行政を担い、人々は行政の垣根を越えて暮らしを営んでいる。「ちちぶ」に生きる私たちは、連綿と受け継がれている先人が育んできた伝統文化、産業を後世へ伝えるために今こそ力を合わせなくてはならない。この歴史の重みを誇りとし、秩父市は周辺自治体とともに地域住民の福祉向上と地域振興を図り、希望に満ちた未来の「ちちぶ」を創ることを宣言する。

平成 21 年 3 月 19 日

秩父市長 栗原 稔

ちちぶ定住自立圏形成の背景と取組

中心市となる秩父市が、横瀬町、皆野町、長瀬町、小鹿野町の 4 町を始めとする周辺自治体との定住自立圏の形成に向け、協議をすすめていくにあたり、住民の生活機能を確保し、地域の魅力を向上させていくための都市機能の集積状況、連携・交流の状況、及びちちぶ定住自立圏で展開したい取組は次のとおり。

① 秩父市における都市機能の集積状況

この圏域の公共交通網の中心となる鉄道駅、バス路線のターミナルなどは秩父市に集中し、圏域の中核病院となる市立病院や圏域住民の雇用の場となる工業団地、日常の消費活動を行うショッピングモールや商店街、さらにはスポーツ施設や公園など住民の憩いとなる施設の集積状況は概ね下表のとおりである。

また、国、県の行政機関も本市に集中しており、特に埼玉県 の 5 カ年計画である「ゆとりとチャンスの埼玉プラン」においても、この圏域は「秩父地域」として同じ圏域として分類されているほか、地域特性や地域の課題に対応した保健医療サービスを提供していく保健医療圏に指定されている。

さらに、彩の国秩父地域観光協議会による観光連携など、かねてから一体性の高い地域として協力体制が確立されている。

	秩父市に集積している都市機能	施設名	摘要
教育	各種専門学校	埼玉県立秩父高等技術専門学校 秩父看護専門学校	
	高等学校	埼玉県立秩父高等学校 埼玉県立秩父農工科学高等学校	
	養護学校	埼玉県立秩父養護学校	
	教育体験施設等	埼玉県立大滝げんきプラザ 埼玉県青少年野外活動センター 彩の国ふれあいの森・森林科学館 吉田元気村 秩父市立図書館	
情報・文化 ・スポーツ	ケーブルテレビ局	秩父ケーブルテレビ	
	文化ホール	秩父宮記念市民会館 秩父市文化体育センター 秩父市歴史文化伝承館	
	公園	秩父ミュージックパーク みどりの村	

		美の山公園 秩父羊山公園 秩父聖地公園	
	プール	スポーツの森プール 秩父市温水プール	
交通	鉄道駅	西武秩父駅 影森駅 三峰口駅	列車の起点、終点 となる鉄道駅
	バスターミナル	西武秩父駅 秩父駅 三峰口駅	圏域内のバスの 起点、終点となる バス停
産業	工業団地	秩父みどりが丘工業団地	
	ショッピングモール 商業施設	影森モール 公園橋モール 矢尾百貨店	
	地場産業	秩父地域地場産業振興センター	
	観光案内	彩の国ふるさと秩父観光情報館 秩父総合観光案内所	
警察・消防	警察	秩父警察署	
	消防	秩父消防署	
医療・福祉	救急病院	医療法人花仁会秩父病院 秩父市立病院 秩父第一病院 健生堂医院	県指定
	児童デイサービス	星の子教室	自立支援法に基 づく児童デイサ ービス
	地域生活支援	フレンドリー（清心会） フレンドリー（カナの会） アクセス	自立支援法に基 づく地域生活支 援事業
	老人性認知症疾患治 療病棟	秩父中央病院	
	老人性認知症センタ ー	秩父中央病院	
国・県の 行政機関	地域振興	埼玉県秩父地域振興センター	
	税務関係	秩父税務署	

	埼玉県秩父県税事務所	
環境関係	埼玉県秩父環境管理事務所	
福祉・保健関係	埼玉県秩父福祉保健総合センター 秩父保健所	
産業・厚生関係	埼玉社会保険事務局秩父社会保険 事務所 秩父公共職業安定所 秩父労働基準安定所 埼玉森林管理事務所 埼玉県秩父農林振興センター	
地域整備関係	埼玉県秩父県土整備事務所	
法務関係	さいたま地方検察庁秩父支部 さいたま地方法務局秩父支局	
裁判所	さいたま家庭裁判所秩父支部 さいたま地方裁判所秩父支部 秩父簡易裁判所	
教育関係	埼玉県北部教育事務所秩父支所	

② 主な周辺自治体の都市機能利用状況

下表のとおり、市民のみならず主な周辺自治体の住民も、秩父市に集積した都市機能を利活用している。

- ・ 秩父市立図書館の利用登録者数

(単位：人)

	利用登録数	割合
横瀬町	2,187	5.6%
皆野町	2,258	5.8%
長瀨町	907	2.3%
小鹿野町	1,984	5.1%
4町計	7,336	18.7%
秩父市	31,426	80.2%
全利用登録者数	39,176	100%

注：平成20年度図書館要覧数値

・ 秩父市立病院地区別患者数

(外来患者) (単位：人)

	外来患者数	割合
横瀬町	5,738	9.0%
皆野町	4,370	6.8%
長瀬町	2,106	3.3%
小鹿野町	4,462	7.0%
4町計	16,676	26.1%
秩父市	45,970	72.1%
全外来患者数	63,799	100%

注：平成20年1月1日～平成20年12月31日の患者数

(入院患者) (単位：人)

	入院患者数	割合
横瀬町	133	7.4%
皆野町	90	5.0%
長瀬町	60	3.3%
小鹿野町	141	7.9%
4町計	424	23.6%
秩父市	1,286	71.7%
全入院患者数	1,794	100%

注：平成20年1月1日～平成20年12月31日の患者数

・ 消費動向（秩父市への吸収・流入率）

	商品総合	日用・家庭 雑貨、一般 飲食料、食 材類	衣料品、寝 具類	靴、かばん 類	自転車、家 庭用電化 製品、家具 類	園芸、スポ ーツ用品 楽器、文房 具類
横瀬町	76.2%	64.4%	77.0%	73.3%	76.7%	82.7%
皆野町	48.9%	17.5%	66.8%	63.8%	50.3%	47.6%
長瀬町	18.6%	3.0%	26.6%	27.9%	18.8%	17.9%
小鹿野町 (合併前)	64.8%	21.6%	79.5%	80.0%	76.3%	67.0%
旧両神村	62.7%	23.7%	79.3%	79.5%	82.7%	58.3%

注：平成17年度 彩の国広域消費動向調査数値

③ ちちぶ定住自立圏で展開しようとする取組

秩父市が、横瀬町、皆野町、長瀨町、小鹿野町の 4 町を始めとする周辺自治体との定住自立圏の形成を図り、圏域全体の暮らしに必要な都市機能を集約的に整備し、圏域住民に必要な生活機能を確保していくため、想定される取組は以下のとおり。

(1) 生活機能の強化に関すること

a 産業振興

- 一 地域全体を包括する観光交流施策を推進する。
 - ・ 秩父まるごとジオパーク構想を推進し、圏域の自然環境資源、歴史文化資源を保全活用する。
- 一 産業を活性化し、いきいきと働ける活力ある地域を形成する。

b 教育

- 一 教育力の向上、子育て支援策を充実させる。
 - ・ 旧埼玉県立秩父東高等学校跡に、大学と連携して理科教育を中心とした質の高い教育を充実する。

c 医療

- 一 誰もが健康でいきいきと生きていける地域のために、地域医療・福祉を充実させる。

d その他

- 一 いのちの水を育む水源の地域として、うつくしい自然環境を保全・活用する。
 - ・ バイオマスの活用による低炭素社会型の環境圏を構築する。
- 上記のほか、圏域内の生活機能の強化に関すること。

(2) 圏域ネットワークの整備に関すること

a 地域公共交通

- 一 住民参加によるまちづくりで快適で、温もりある地域社会を創る。
 - ・ デマンド交通など、圏域の公共交通空白地帯の解消を図る。

b 地域の生産者や消費者等の連携による地産地消

- 一 圏域内での地産地消を視野に入れた農業振興施策を促進する。
 - ・ 砂糖大根や太白サツマイモなど秩父特有の農産物を栽培し、特産加工品による地域ブランドの構築を図る。

c その他

上記のほか、圏域内の結びつきやネットワークの強化に関すること。

(3) 圏域内外の人材交流等に関すること

a 人材の育成・交流

- 一 地域の将来を担う人材を育成する。
 - ・ 産官学連携により地域の政策形成能力を高め、圏域住民の人材育成を図る。
- 一 圏域住民と都市住民との交流活動により賑わいと感動が生まれるまちづくりを推進する。

b その他

上記のほか、圏域内連携に関すること。

④ 秩父市に対する通勤通学割合

平成 12 年国調の数値によると、秩父市への通勤通学者の人数は、下表のとおりとなっており、秩父市に対しての通勤通学割合が 10%以上である町は、横瀬町、皆野町、長瀞町、小鹿野町の 4 町である。

このことから、秩父市は住民生活等において中心的な役割を担っている。

- ・ 周辺地域から秩父市への常住地による就業・通学状況

(単位：人)

	常住就業者・ 通学者 の総数	うち、秩父市への 就業・通学者数	割合
横瀬町	4,498	1,690	37.6%
皆野町	5,432	1,404	25.8%
長瀞町	3,925	505	12.9%
小鹿野町 (合併前の旧両 神村と合算)	6,592	1,374	20.8%
旧 4 町計	20,447	4,973	24.3%

注：平成 12 年国勢調査数値